

- ① 次の文章の□に身体の一部の言葉を入れて、一線部分が【】内の意味になるように文章を完成させなさい。

- ① 返却へんきやくされたテストの点数に□を疑うたった。 【見たことが信じられない様子】
- ② 格上かくうえのチームに全く□が立たない。 【とても対抗たいこうできないこと】
- ③ 休みの日に、隣町となりまで□を伸ばした。 【予定より遠くへ行くこと】
- ④ 大きな役目を果たし、□の荷にが下りた。 【責任を果たし終えて楽になり、落ち着くこと】
- ⑤ 友人が家に来るのを□を長くして待っている。 【心待ちにしている様子】
- ⑥ 毎日、同じことで注意され□が痛いたい。 【自分の欠点をはっきり言われて、つらいこと】

④	①
肩 <small>かた</small>	目
⑤	②
首	歯
⑥	③
耳	足

- ② 次の慣用句を使い、短文を作りなさい。

- ① 「ごぼうごぼう抜きぬにする」

【例】リレーのアンカーが、前に走っていた三人を「ごぼう抜き」にした。

※【競走で数人を一気に抜き去ること】という意味を正しく活用できていれば正解

- ② 「羽を伸ばす」

【例】毎日忙しいので、休みの日くらい羽を伸ばしたい。

※【抑えつけられていたものから解放され、自分の思うように振る舞うこと】と「この意味を正しく活用できていれば正解」

① 次の文章を、主語に注目して二つの文に分けて書き直します。つなぎ言葉(接続詞)を使って、書き出したら続けて書きまわしましょう。

①今日は、図工があるのので、絵の具セットを持って家を出ました。

※使いつなぎ言葉【だか】

ま	ら	
し	、	今
た	絵	日
。	の	は
	具	、
	セ	図
	ツ	工
	ト	が
	を	あ
	持	り
	っ	ま
	て	す
	家	。
	を	だ
	出	か

② ぼくは、練習をがんばったが、大会の結果は五位だった。

※使いつなぎ言葉【しか】

か		
し	ぼ	
、	く	
大	は	
会	、	
の	練	
結	習	
果	を	
は	が	
五	ん	
位	ば	
だ	っ	
っ	た	
た	。	
。	し	

② 次の二つの文を一つの文に書き直します。書き出しに続けて書きまわしましょう。

① おにごっこが人気です。だから、みんなで休み時間におにごっこをして遊びました。

遊	な	
び	で	お
ま	休	に
し	み	ご
た	時	っ
。	間	こ
	に	が
	お	人
	に	気
	ご	だ
	っ	な
	こ	の
	を	で
	し	、
	み	み
	ん	ん

② 天気予報は雨だ。けれど今のところは晴れている。

こ		
ろ	天	
空	気	
は	予	
晴	報	
れ	は	
て	雨	
い	だ	
る	け	
。	れ	
	ど	
	、	
	今	
	の	
	と	

- ① 次の【文章の一部】は、ゆみさんが遠足から帰ってきて書いて書いた作文です。これを読んで、あと
の問いに答えましょう。

【文章の一部】

今年の遠足は、クリスタルパークに行ってきました。私は、そこには行ったことがなかったのですが、とても楽しかったです。前日の天気予報は、雨だったので、せっかくの遠足が中止になるのではないかと、心配でなかなか眠れませんでした。しかし、朝起きたらきれいな青空が広がっていたので、私はとてもうれしかったです。

- 一 次の□には、ひらがなで書きぬきまじょう。

ク
リ
ス
タ
ル
パ
ー
ク

- 二 私が、眠れなかった理由を二十五字以内で書きまじょう。

(例)

遠	は	か
足	な	ら
が	い	。
中	か	
止	と	
に	心	
な	配	
る	だ	
の	っ	
で	た	

- 三 私が、起床したときに、うれしかった理由を、次の言葉につながるように、
三十文字以内で書きまじょう。

(例)

天	れ	広
気	ど	が
予	、	っ
報	き	て
は	れ	い
雨	い	た
だ	な	か
っ	青	ら
た	空	。
け	が	

【POINT】

「理由」を解答する場合は、文末を「…から。」や「…ため。」にすることが大切です。

① 次の①～②は「同訓異字」があります。例にならって、意味の違いが分かるように、別の漢字を使って短文を三つ作りましょう。

(例) うつつ

- ・資料の保管場所を別の場所に移した。
- ・話し合いの様子をビデオに写す。
- ・撮影した動画をスクリーンに映す。

【POINT】

<写す>
そのとおりに書く。画像などに残す。

<映す>
画像などを再生する。投影する。反映する。

① あつい

例

- ・彼は級友からの信頼が厚い。
- ・今年の夏は暑い日が多かった。
- ・ストーブの煙突えんとつが熱かった。

【POINT】

<暑い>
「寒い」の対義語。

<熱い>
「冷たい」の対義語。

② つとめる

例

- ・成績の向上に努める。
- ・総会の司会を務める。
- ・三月まで会社に勤める。

【POINT】

<努める>
努力する。

<務める>
任務を果たす。

<勤める>
勤務する。

② 次の①～②は「同音異義語」があります。意味の違いが分かるように、別の漢字を使って短文を三つ作りましょう。

① しゅうかん

例

- ・ランニングを習慣にする。
- ・今日から春の交通安全週間しゅうかんである。
- ・週刊誌を定期購入しゅうかんする。

【POINT】

「習慣」「週間」「週刊」のほか、「収監」(監獄に収容すること)「集患」(患者を集めること)なども考えられます。

② たいしゅう

例

- ・中学生を対象に調査する。
- ・点対称の図形をかく。
- ・二人は対照的な性格である。

【POINT】

「対象」「対称」「対照」のほか、「大正」(昭和の前の時代)、「大将」(ある集団の頭目や優れた人物)、「大賞」(最も優れたものに与えられる賞)等も考えられます。

- ① 次の文中の——線部のカタカナの部分^を正しく漢字で書きましよう。送り仮名が必要な時は、送り仮名も書きましよう。

私は今年の夏休みに、祖父母のいる①ギフ県に家族で旅行に行きます。祖父が七十歳の誕生日をむかえるので、みんなで②イワウ予定です。③ニイガタ県に住んでいるいとも来るので、みんなに会えるのが今からとても楽しみです。

①	岐阜
②	祝う
③	新潟

- ② 次の文中に、誤^{あや}って使われている熟語^{じゆくご}が三つあります。誤^{あや}っている熟語に直線を引き、解答欄^{たうらん}に正しく書き直ましよう。

先日行われた児童会選挙では、私たちの学級の会長候補である千葉さんが高い指示^{しじ}を得て当選^{とうせん}しました。となりのクラスの秋田くんが票を集めると予想していたので、以外^{いげん}でした。選挙演説をよく聞いて判断^{けんぱん}してくれるなど、有権者の選挙への感心^{かんしん}が高かったためかも知れません。

①	支持
②	意外
③	関心

- ③ 次の文中の——線部の読み方を書きましよう。

① 手間を省く

はづ

② 百も承知

しようち

③ 勢いをつける

いきお

① けんじさんの学級では、生活の中で気になったことを調べる学習を行っています。けんじさんは、旭川市から出ているごみの量について調べました。資料1と資料2は、けんじさんが意見文を書くために収集した資料です。資料をよく見て、あとの問いに答えましょう。

① けんじさんは、資料1のグラフから分かることを意見文に書くことと考えています。グラフから分かる適切な文章を選びましょう。

- ア 事業系ごみと家庭ごみは、年々減ってきている。
 イ 家庭ごみの排出量は、総排出量の半分を占めている。
 ウ ごみの総排出量は、一度大きく減り、その後あまり変化はない。

ウ

② けんじさんは、家庭でできる工夫として資料2の「3R」の取組を見つけました。そこでけんじさんは、資料3のような意見文を考えています。あなたが意見文を書くとしたら、どのような取組を提案するか、左の条件に沿って書きましょう。

- 条件1 資料2から、具体的な取組を一つ選ぶこと。
 条件2 取組の具体的な場面を記入すること。
 条件3 提案する意見の言い方で百字以内で書くこと。

解答例

・ぼくは、家庭でできる工夫として、リサイクルショップを活用することを提案します。着なくなった服を捨てずに、お店に持ちこめば、ごみが減ります。みなさんも着なくなった服をお店に持ちこみましよう。

・わたしは、家庭でできる工夫として、資源物を回収に出すことを提案します。新聞紙などを資源回収に出すことで、リサイクルにつながります。みなさんも、資源回収できるものは捨てずに、資源回収に出しましょう。

・わたしは、家庭でできる工夫として、ごみを正しく分別することを提案します。ごみを捨てる時に、正しく分別することで、リサイクルにつながり、ごみが減ります。みなさんも、ごみの分別をしっかりと行いましょう。

- ① 旭川中学校の工藤さんは、総合的な学習で「職業体験学習」をさせてもらった旭山幼稚園にお礼の手紙を書きました。次の【幼稚園への手紙】を読んで、問題に答えましょう。

拝啓

日に日に秋が深まる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、先日は私たちの職業体験学習にご協力いただきありがとうございます。初めて園児に接したときには、緊張のあまり「おはよう」も言えませんでした。しかし、先生方の園児への接し方を見せていただいたおかげで、園児と元気に挨拶を交わせ、笑顔で接することができるようになりました。今回の経験を生かし、自分の将来について考えていきたいと思っています。これからも、皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

D
B
C
A

- 一 A に入る言葉を次の1～3から選び、() に数字を書きましょう。

1 かしこ 2 敬具 3 早々

A () 2 ()

【POINT】
「かしこ」
「敬具」
「早々」
は、いずれも手紙の終わりに書く「結語」です。使い分けについて、調べてみましょう。

- 二 B、C、Dの中に入る内容を、それぞれ次の1～3から選び、() に数字を書きましょう。

1 自分の名前 2 相手の名前 3 日付

B () 3 () C () 1 () D () 2 ()

【POINT】
• 相手方に敬意を表するため、相手の名前は最も高い位置に書きます。
• また、同じ考え方から、自分の名前は最も低い位置に書きます。

- ② 左のように、団体あてに封筒にあて名を書く場合、Eに入る言葉を1～3から選び、

E に言葉を書きなさい。

1 様

2 御中
おんちゆう

3 行
ゆき

旭川市十条通三丁目五―三

デザイン株式会社

E 御中

【POINT】

- 相手方が企業等の場合、敬称として「御中」を使用します。
- あて名を書く際は、投稿先の名前に敬称を付け、封筒の中央に、住所よりも大きな字で書くことが大切です。

- 1 旭川中学校の中村さんは、「総合的な学習の時間」の調べ学習で、「兵村記念館」を訪れました。次の会話の中の一線部分のうち、敬語の使い方が誤っているところが二カ所あります。誤っている記号を答え、正しい敬語に改めなさい。

中村 「こんにちは。旭川中学校の中村です。今日は旭川市の歴史を調べに、いらつしやいました。よろしく願います。」

職員 「こんにちは。昨日連絡をくれた中村さんですね。今日は、ゆっくり見学していただくか。」

中村 「ありがとうございます。記念館の中で写真を撮らせていただいてよろしいですか。」

職員 「一般に展示しているものなら大丈夫です。」

中村 「わかりました。見学後に質問したいことがあるのですが、どなたに質問させていただきますとよろしいですか。」

職員 「内容に応じて、専門の職員を紹介します。どのような質問ですか。」

中村 「旭川市の開拓のことについて、存じ上げている方をお願いします。」

記号	ア	正	まいりました(うかがいました)
記号	エ	正	ご存知の

【POINT】
「知る」
〈尊敬語〉
ご存知, お知りになる, 知られる
〈謙讓語〉
存じ上げる, 存じる

- 2 次の文章は、旭川中学校の中田さんが職業体験学習のお礼として書いた手紙の一部です。この文章の中には謙讓語を使った方がよい言葉が一つあります。それを一文節で抜き出し「謙讓語」に直しなさい。(※文節とは、意味がこわれない程度に文を細かく区切った言葉のかたまりのことです)

職場の皆さんが丁寧^{ていねい}に教えてくださったおかげで、たくさんのことを学ぶことができました。お忙しい中にも関わらず、貴重な体験^{きぶじょう}をさせてもらい、ありがとうございます。ございました。

記号	(わかれ) もらい	正	(わかれ) いただき
----	-----------	---	------------

1 次の「学校便り」には、漢字の間違いが六カ所あります。間違いを探し、正しい漢字に直さない。

〇〇中学校 学校便り

学び舎

第3号

令和元年 9月30日

素晴らしい歌声 ～ 合唱コンクール

9月27日（金）に、合唱コンクールが行われた。本校の合唱コンクールは毎年、音協設備が素晴らしい「旭川ホール」を貸りて行われる。今年度も、全6クラスの素晴らしい合唱が披露された。

本校では、毎年、指揮者や伴奏者、パートリーダーを中心に、放課後の時間を活用して自主的に練習を重ねている。クラス全員が心をつくり上げる合唱は、聴衆の心を揺さぶる。全校生徒、保護者が見守り、地域のお年寄りも招き入れる。多くの聴衆の心に届けようと、毎日の練習が協力して進められていた。

今年度の最優秀クラスは、3年B組。しかし、どのクラスも拍力のある合唱で、本校の合唱技術の高さが感じられた一日だった。

【正】
↓
迫

【誤】
↓
拍

【正】
↓
待

【誤】
↓
態

【正】
↓
伴

【誤】
↓
判

【正】
↓
敵

【誤】
↓
摘

【正】
↓
借

【誤】
↓
貸

【正】
↓
響

【誤】
↓
協

1 次の詩に使われている表現技法を、三つ以上答えなさい。(二回以上でつくるものは、一回
 答えればよい)

落葉松

北原白秋

一
 からまつ
 の林を過ぎて、
 からまつを
 しみじみと見
 き。
 からまつは
 さびしかり
 けり。
 たびゆくは
 さびしかり
 けり。

二
 からまつ
 の林を出で
 て、
 からまつ
 の林に入り
 ぬ。
 からまつ
 の林に入り
 て、
 また細く
 道はつづ
 けり。

三
 からまつ
 の林の奥も
 わが通る
 道はあり
 けり。
 霧雨のか
 かる道な
 り。
 山風のか
 よふ道な
 り。

四
 からまつ
 の林の道は
 われのみ
 か、ひと
 もかよひ
 ぬ。
 ほそぼそ
 と通ふ道
 なり。
 さびさび
 といそぐ
 道なり。

五
 からまつ
 の林を過
 ぎて、
 ゆゑし
 らず歩み
 ひそめつ。
 からまつ
 はさびし
 かりけり、
 からまつ
 とささや
 きにけり。

六
 からまつ
 の林を出
 でて、
 浅間嶺
 にけぶり
 立つ見つ。
 浅間嶺
 にけぶり
 立つ見つ。
 からまつ
 のまたそ
 のうへに。

七
 からまつ
 の林の雨
 は
 さびしけ
 どいよよ
 しづけし。
 かんこ鳥
 鳴けるの
 みなる。
 からまつ
 の濡るる
 のみなる。

八
 世の中よ、
 あはれな
 りけり。
 常なけど
 うれしか
 りけり。
 山川に山
 がはの音、
 からまつ
 にからまつ
 のかぜ。

【POINT】

- 対句 … 言葉を形や意味が対応するように並べる方法。リズムや意味の面でまとまりが生まれ、整然とした印象を与える。
- 反復 … 同じ言葉を繰り返す方法。たたみかけるようなリズムが生まれ、繰り返されている情景や心情が強調される。
- 体言止め…文末や区末を体言(名詞)で結ぶ方法。詩や短歌、俳句で用いられることが多く、しみじみとした余韻を残したり、きっぱりとした印象を与えたりする。

- ・ 対句 (霧雨の・山風の、かかる道・かよふ道 など)
- ・ 反復 (からまつ・からまつ、さびしかりけり・さびしかりけり など)
- ・ 体言止め (山がはの音、からまつのかぜ)
- ・ 擬人法 (からまつはさびしかりけり など)

2 「直喩」(よじに・みだいに)などを用いて、直接明らかに示してたとえる方法()を使った短文をしくひなさい。

(例) 一羽の鳥が、まるで矢のように空を横切った。

1 次の文の―線部分の単語を、自立語か付属語に分類しなさい。

私たちの^ア社会は、^イさまざまな考え^ウをもつ人たちから^エ成り立っ^イています。

自立語	ア・イ・エ	付属語	ウ・オ
-----	-------	-----	-----

2 次の文の―線部分の単語を、活用する単語か、活用しない単語に分類しなさい。

私たちの^ア社会は、^イさまざまな考え^ウをもつ人たちから^エ成り立っ^イています。

活用する	イ・エ・オ	活用しない	ア・ウ
------	-------	-------	-----

【POINT】

ア	社会	…名詞	自立語	活用しない
イ	さまざまな	…形容動詞	自立語	活用する
ウ	を	…助詞	付属語	活用しない
エ	成り立っ	…動詞	自立語	活用する
オ	ます	…助動詞	付属語	活用する

3 次の―線部分の単語の品詞名を答えなさい。

- ① 太陽が^ア出て、^イ周囲が^ウ明る^エくなった。
- ② 夢を^アきつと^イ実現^ウして^エみせる。
- ③ この道^アを^イまっすぐ^ウ進め^エば^オ目的^カ地^キに着^クく。
- ④ 今度の^ア試合^イには^ウ絶対^エに^オ勝^カとう。
- ⑤ そんなに^ア嫌^イなら、^ウもう^エやめ^オなさい。
- ⑥ 選手^アの^イ動き^ウが^エよく^オない。

【POINT】
⑥「動き」については、

車が動きます。

のような文では、動詞になりますが、例文のように主語になることができ、「動き方」や「動く様子」などと置き換えることが可能な場合は、名詞になります。

④	①	動詞	形容詞
⑤	②	形容動詞	副詞
⑥	③	名詞	連体詞